

「ひとまちくらし～地域再考～」

開講日 2017年(平成29)4月～7月・9月～12月 / 各月 第3土曜日 13:30～15:00

受講料 全8回受講 ¥7,000 および会員登録費 ¥500 / 各回受講 ¥1,500

受講申込受付期間 2017年1月10日(火)～3月31日(金)
 詳しくは事務局までお問い合わせください。

定員 100名

情報化社会が加速され、日々新たな情報に私たちは戸惑いを余儀なくされています。2017年度の公開講座では私たちの暮らしに、もう一度目を向け、今よりももっと豊かで安心な日々を迎えるための多様なヒントをお届けします。大手前大学・大手前短期大学の教員8人リレー講座、お誘いあわせの上、是非お越しください。

なお、全8回お申込の方は【大手前公開講座友の会】会員として、ささやかながらご優待を予定しています。会員登録費は500円です。但し、これまで受講され会員番号をお持ちの方で2017年度も全8回の受講をお申込の場合に限り会員登録費を無料とさせていただきます。引き続きの受講をお待ち申し上げます。多くの皆さまに受講いただけるよう、各回の申込も受け付けています。

申込方法

①受講申込用紙に記入し、ファックスで公開講座係(0798-32-5147)へ送信してください。

受講申込用紙に記入して切り取り、公開講座係へ郵送してください。

・本学 Web サイト <http://www.otemae.ac.jp/social/learning/lecture/>
 または QR コード「公開講座」の「2017年度公開講座受講申込フォーム」
 で必要事項を入力して送信してください。



申込サイト

※申込が定員に達した場合は受付を終了いたします。

※ご記入いただいた個人情報は、大手前学園プライバシーポリシーに則り

<http://www.otemae.ac.jp/about/activity/#activity01>

公開講座の手続き、資料や案内の送付および関連情報のお知らせにのみ使用いたします。

②公開講座係から折り返し、「受講料振込」についてファックス・郵便・メールの

いずれかでお知らせします。最寄りの郵便局から受講料をお振込ください。

※キャンセルする場合は受講料振込の前に公開講座係までご連絡をお願いします。

ご入金後には、理由のいかんによらず受講料の返金をいたしかねます。あらかじめご了承ください。

③ご入金を確認後、3月中旬以降に受講票を送ります。公開講座出席時に受付でお示しください。

会場



■交通案内
 JR さくら夙川駅から徒歩 7分
 阪急夙川駅から徒歩 7分
 阪神香櫛園駅駅から徒歩 7分
 阪神バス森具停留所から徒歩 2分
 駐車スペースはありません。

事務局 大手前大学・大手前短期大学 就業力支援・社会連携室 公開講座係
 〒662-8552 兵庫県西宮市御茶家所町 6-42 TEL 0798-32-7532 FAX 0798-32-5147

受講申込用紙

「大手前大学・大手前短期大学 就業力支援・社会連携室 公開講座係」宛
 2017年度大手前大学・大手前短期大学公開講座「ひとまちくらし～地域再考～」受講希望

全8回
 会員登録を希望

各回

4月の講座 5月の講座 6月の講座 7月の講座
 9月の講座 10月の講座 11月の講座 12月の講座

お名前： _____ 受講番号： _____
 ご住所：〒 _____
 メール： _____ @ _____
 (生年(西暦) 年生まれ) 男性・女性
 TEL： _____ FAX： _____

■個人情報を大手前学園プライバシーポリシーに則して取り計らうことに 同意します・ 同意しません

WEEKEND COLLEGE 2017

ひとまちくらし～地域再考～

4月 アニメ・マンガの「サザエさん」と
 小さなコミュニティ
 鳥越 皓之



5月 教科書が語る戦争 北島 順子



6月 食の安全・安心は、今!
 三木 紳一郎



7月 知って得する! 体のしくみと栄養学
 吉澤 みな子



9月 マンガと暮らす
 倉田 芳美



10月 体重と健康
 ～体に悪いのは肥満だけ?～
 李明鎮



11月 色と心の不思議な関係
 山下 真知子



12月 暮らしの知恵は科学のエッセンス
 - どう伝えていくべきか -
 和田 珠子



会場 大手前大学 夙川キャンパス
 大手前アートセンター



QRコード

<http://www.otemae.ac.jp/form/015.html>
 駅構内、及び車内の「携帯電話のご利用マナー」にご協力ください。

各回のテーマならびに内容は、都合により若干の変更が生ずることもあります。ご了承ください。

開講日 2017年(平成29)4月～7月・9月～12月 / 各月 第3土曜日 13:30～15:00

受講料 全8回受講 ¥7,000 および会員登録費 ¥500 / 各回受講 ¥1,500

受講申込受付期間 2017年1月10日(火)～3月31日(金)
 詳しくは事務局までお問い合わせください。

定員 100名

お問合せ：事務局：大手前大学・大手前短期大学
 就業力支援・社会連携室 公開講座係
 〒662-8552 兵庫県西宮市御茶家所町 6-42
 TEL 0798-32-7532 FAX 0798-32-5147

「ひと まち 暮らし～地域再考～」

本学教員 多彩な 8 人リレー講座

第 1 回 (4月15日:土) アニメ・マンガの「サザエさん」と小さなコミュニティ

サザエさんは昭和 26 年にはじまり、マンガがアニメに変わって現在で 65 年も経過した。それでも長寿番組として今もテレビで放映されているのはなぜだろうか。すでに『サザエさん』のような 3 世代家族は時代遅れだし夫は会社で働き、妻は専業主婦というスタイルも時代遅れだ。けれども、そこには、現代の社会の要求にマッチしたものが含まれているはずである。それを「小さなコミュニティ」というキーワードを使って解明しよう。



総合文化学部
鳥越 皓之

第 2 回 (5月20日:土) 教科書が語る戦争

共同主宰する私設教科書総合研究所 (大阪府堺市所在) では約 6400 冊の近現代教科書を所蔵しています。戦後 71 年、戦争体験者の語り部が年々減少していく中、近代教科書を検証し解題を作成して情報発信することが、戦争体験の記憶継承につながり、戦争の歴史の風化を阻止するために重要な役割を果たすと考えています。本講座では、「近代教科書にみる戦争と身体文化」について、国民学校の教科書を提示しながら、運動会・桃太郎・桜の花・村の鍛冶屋・少国民等をキーワードに考察します。



ライフデザイン
総合学科
北島 順子

第 3 回 (6月17日:土) 食の安全・安心は、今!

皆さんは、食中毒の経験はありますか? 食中毒になると、一般に嘔吐や下痢、発熱などの症状があり、重症化すると死亡することもあります。日本では、1,202 件 (平成 27 年) の食中毒事件が発生し、22,718 人が発症し 6 人が亡くなっています。一方、日本の食糧自給率は 39% と低く、約 6 割を海外から輸入している現状もあり、食品添加物や残留農薬などに不安を感じている方も多いと思います。今回は食中毒の種類、食中毒発生のメカニズムや予防方法などについてお話しさせていただき、皆さんの安全で安心な食生活の一助となれば幸いです。



健康栄養学部
三木 紳一郎

第 4 回 (7月15日:土) 知って得する! 体のしくみと栄養学

私たちの身の周りには、健康に良い食べものや元気に長生きするための生活習慣など、健康に関する情報が溢れています。「肉より魚の方が健康に良い」という情報もあれば、「肉を食べているの方が長生き」という情報も逆に「肉も魚も体に悪い」という情報まであります。さて、どの情報が正しいのでしょうか? 本講座では、日々の生活に役立つ正しい健康情報について、体のしくみと栄養学を中心にお話ししたいと思います。



健康栄養学部
吉澤 みな子

第 5 回 (9月16日:土) マンガと暮らし

「日本はマンガで出来ている!」このような表現をしても可笑しくないほど日本はマンガで溢れています。では、今の私たちの生活の中にどれだけマンガが入ってきているのでしょうか? 「生活の中にあるマンガ」の昔と今を比較し、なぜにも、こんなにマンガだけの世界になったのかをマンガ制作現場と制作過程を見ながら推測していきます。最後に、世界マンガ事情を見ながら、日本のマンガの将来はどうなっていくのであろうかの予測を話します。



メディア・芸術学部
倉田 芳美

第 6 回 (10月21日:土) 体重と健康～体に悪いのは肥満だけ?～

肥満は生活習慣病をはじめとする様々な病気の原因になることが知られており、体重を減らすために努力を惜しまない人が大勢います。しかしながら、過度な減量によるやせすぎも体に大きい負担を与えるので、決してよい状態ではありません。本講座では、肥満とやせすぎに関連した病気について学び、健康な生活を営むために目指すべき最も適切な体重である「標準体重」に近づくための望ましい生活様式について紹介します。



健康栄養学部
李明鎮

第 7 回 (11月18日:土) 色と心の不思議な関係

私たちは生まれたときから数え切れないほどの「いろ」に囲まれて生きています。けれど「思い浮かべてごらん」と言われると、それら全部を思い出すことはできずイメージとしての記憶でしかないことに気がきます。色と心の不思議な関係を研究事例から紐解きながら、環境色としての色を通して色を活用した豊かな暮らしの在り方を皆さまと共に考えていきたいと思ひます。



現代社会学部
山下 真知子

第 8 回 (12月16日:土) 暮らしの知恵は科学のエッセンス - どう伝えていくべきか -

伝統的な加工食品の製法や、「おばあちゃんの知恵」「料理のコツ」などと呼ばれる生活に役立つ知識は、親から子へ、また地域の中で伝えられてきました。しかし、生活に必要なものはほとんどが既製品として簡単に手に入る時代になりこれらの知識や技術は私たちの暮らしの中から消えつつあります。今回は、食にまつわる「知恵」を科学の視点から見直し、先人の知力と努力に思いを馳せつつ、どのように次世代に伝えていくべきか考えます。



ライフデザイン
総合学科
和田 珠子